

104 漁場・漁海況

人工魚礁におけるマアジの行動特性

○伊藤 靖・三浦 浩（漁村研）・
中村憲司・吉田 司（シャトー海洋調査）

【目的】マアジは年間生産量が 20～30 万トンにおよぶ多獲性浮魚類で国民生活に深く関わった重要種である。しかし、成魚の行動生態の詳細については未だ不明な点が多い。本研究は、人工魚礁に蟄集するマアジ成魚の行動特性を把握して、今後の漁場造成に資する基礎的資料とすることを目的とした。

【方法】供試魚には日本海北部海域，佐渡島南西側の佐渡市羽茂地先，約 3km，水深 45m に設置された人工魚礁（礁高 21m）で釣獲されたマアジを用いた。マアジの全長は約 34～36cm であった。供試魚の尻鰭基部に水圧センサー付き超音波発信機（VEMCO 社製 V9P-1H）を外部装着した。発信機を装着したマアジの放流は 10～20 尾（全長 32～34cm）のマアジとともに人工魚礁の真上で行った。追跡はハイドロフォン-VR28 と VR100（VEMCO 社製）を用いた。マアジの追跡は 2000 年 6 月 16 日から 6 月 28 日の間に 4 回行った。

【結果】マアジは日中，人工魚礁の上段部から上層（水深 15～25m），天然礁の底層付近への定位が確認された。日没後，数時間たってから人工魚礁や天然礁から離脱し始め，水深 5～10m を遊泳する行動が夜間を通じてみられた。時折，急潜行と急浮上を行う逃避行動も確認された。逃避行動は日中より夜間に出現頻度が高くなる傾向を示した。日の出の数時間前には人工魚礁や天然礁に，再び定位した。このようにマアジ成魚には日周期行動が確認できた。